

スペシャルグループワークショップ セッション詳細

会 員(無料): 4/2 (月) 10:00~9/7 (金)17:00 **先行予約受付!**

非会員(無料):4/16 (月) 10:00~9/7 (金)17:00

◆ 救急/集中治療 9/29(土)16:30-18:00・定員 48 名

交絡因子と向き合うワークショップ~交絡因子の選択と解析方法が結果に与える影響を知ろう~

企画責任者:安田 英人 亀田総合病院集中治療科

対象者: 中級者

ワークショップの学習達成目標: 観察研究における交絡因子の選択の重要性を理解し、適切な選択及び解析の方法を実施できる。

ワークショップの概要: 本ワークショップでは、観察研究における交絡因子の選択により要因と結果の関係に相違が生じる可能性があることを経験し、正しい交絡因子を選択することの重要性を理解することを目的とする。ワークショップの流れは以下のように行う。

1. 受講生はあらかじめ作成された観察研究を想定した仮想のデータセットを用いて、あらかじめ設定されたリサーチクエスチョン及びPECOに基づいて、交絡因子をリストアップする(ここまでは事前学習で行う)。
 2. 研究デザイン、交絡因子に関する簡単な講義を行う。
 3. 受講生は複数のグループに分かれてデータセットに含まれる因子を見ながら最終的に解析モデルに組み入れる交絡因子とその解析方法に関してグループディスカッションを行う(各グループにはファシリテーターが配置される)。
 4. グループの受講生同士のディスカッションで決定した交絡因子と解析モデルを用いてファシリテーターがEZRで解析を行う。その結果を全体に対して発表を行う。
 5. 各グループにおけるディスカッションの結果を全体で発表し、それぞれの結果の違いを共有する。選択する交絡因子の組み合わせや方法によっては結果の方向性や大きさが異なることを理解する。
- ・受講生には事前学習で研究デザイン、交絡因子に関する理解を深めておき、かつ、配布されるリサーチクエスチョンとPECOから交絡因子を抽出しておくこと以外、事前に行うことはない。
 - ・当日のワークショップグループは事前アンケートによりある程度レベル分けを行う。
 - ・当日はファシリテーターが解析を行うため受講生がパソコンを持ち込む必要はないが、自身でデータをハンドリングしながら交絡因子の検討を行いたい場合は自身のパソコンを持ち込むことを推奨する。データはUSBで配布する。

◆ プライマリケア 9/30(日)13:10-14:40・定員 48 名

プライマリ・ケア研究プロトコール・ブラッシュアップセミナー

企画責任者:青木 拓也 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野

対象者: プライマリ・ケア領域で臨床研究に取り組んでいる医療者(中級以上)

ワークショップの学習達成目標: 自身の研究プロトコール作成に活用できるTipsを3つ以上持ち帰ることができる。

ワークショップの概要: プライマリ・ケア領域において、我が国からの臨床研究の発信量は、まだ国際的に見て低い。北米では、NAPCRG(North American Primary Care Research Group)が学術集会を開催し、多職種による質の高い研究発表や、若手研究者に対するエキスパートからの形成的フィードバックが行われており、研究活動の活発化に寄与している。

本ワークショップは、NAPCRGのセッションを参考に、我が国で臨床研究に真剣に取り組んでいるプライマリ・ケア領域の医療者を会して、研究プロトコールに対してエキスパートから突っ込んだ助言を得られる「場」、研究者ネットワ

ークを形成する「場」を提供する。

プライマリ・ケア領域の若手医療者に、自身の研究プロトコルを発表してもらい、様々なバックグラウンドを持つ研究指導者クラスからのフィードバックや、同世代の研究者とのディスカッションを通して、研究プロトコルのブラッシュ・アップを図る。またこうしたプロセスを共有することによって、参加者全体の研究リテラシーの向上を図る。対象となる研究は、量的研究のみならず、質的研究や混合研究も含める。

※当日研究プロトコルを発表する若手医療者を公募します。発表を希望される方は、以下のフォームから応募をお願いします。(40歳未満の方が対象です。応募者多数の場合は選考を行います。)

<https://goo.gl/forms/La6TkhcbK6P9Zhqk1>

◆ 多職種 9/30(日)14:50-16:20・定員 30名

多職種チームで「カイゼン」を、学会抄録ブラッシュアップ！！

企画責任者：渡部 一宏 昭和薬科大学 臨床薬学教育研究センター

対象者：初学者

ワークショップの学習達成目標：

1. よい RQ (Research Question) とはなにかを理解できる
2. CQ (Clinical Question) を RQ に構造化できる (PI/ECO)
3. RQ の質を評価することができる (FIRM2NESS チェック)

ワークショップの概要：臨床現場の疑問を臨床研究で解決するためには、そこに関わる様々な職種（医師・薬剤師・看護師・リハビリ・栄養士・医療事務など）の連携が不可欠です。専門性の異なる職種同士で効果的に議論していくためには、この研究で明らかにしたい疑問とその意義や重要性を共通言語で理解する必要があります。

本ワークショップでは曖昧な臨床上の疑問をどのようにまとめればいいのか、その質をどのように評価すればいいのか、レクチャーと実習を通じて習得を目指します。臨床研究の実践に関心はあるが何から取りかかれば良いか分からない方、学会発表を聞いても良い研究なのかどうかいまいちピンとこないという方、ご自身の学会発表の内容をブラッシュアップしたい方向けの内容です。初学者でも安心して参加して頂けます。

当日は曖昧な疑問のまとめ方（Research Question の構造化）や Research Question の質の評価方法（FIRM2NESS チェック）に関するレクチャーに加え、小人数のグループを作り、よくみかける学会抄録例をもとにしたグループワークを行います。各グループにはファシリテーターがつき、グループワークのサポートをします。グループワークの成果は全体で共有し、講師、ファシリテーターも参加して、ディスカッションを行います。最後にはレクチャー、グループワークで学んだ前後で比較して、学会抄録の読み方がどのように変化したかを実感して頂きます。また今後の学習・研究につながる情報提供も行います。

本ワークショップが臨床現場をより良く「カイゼン」できる研究の実現に向けて、多職種で取り組む Research Question の意義や重要性を体感し、はじめの第一歩を踏み出して頂くきっかけとなることを期待します。

なお、コンピュータなどの機材は使用しません。